

令和2年度 園の自己評価

		評価 (1～5)	今年度の状況
教育・保育	園児一人一人が安心感と信頼感をもって活動に取り組む体験を十分に積み重ねられるようにする	5	3歳未満児クラスは担当制をとることで、一人ひとりと深く関わり園児との信頼関係を築くことができたため、それぞれの園児に合わせた保育ができ、安心安定感をもって生活していた。3歳以上児クラスは一人ひとりの個性を受け止め、チーム保育を行うことで、細やかな援助をすることができ、それぞれが活動の基礎となった。
	主体的な活動を促す環境の工夫をする	4	自分でしようとする気持ちを大切に、状況に合わせて環境を作れるようにした。
	自発的な活動としての遊びを通して指導を行う	5	子どもの考えを遊びに取り入れ、必要に応じて言葉かけを行うようにしていた。
	園児一人一人の特性や発達に応じた指導を行う	4	園児の特性や発達について担当者で共通理解をし、発達に合わせた活動に取り組んだ。3歳以上児クラスでも子どもの思いに寄り添い、無理なく活動に参加できるようにした。
	活動によって幼保連携型認定こども園教育保育要領に示されている3つの資質・能力が育まれている	3	様々な活動の中で「知識及び技能の基礎」を培い、試したり工夫したりする力は育まれてきたが、さらにそれを応用したり、自ら意欲的に生活を進めていくところまでは発展できなかった。
	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を意識し、教育・保育にあたる	4	年齢毎のつながりを意識し、10の姿を見据えながら、保育・教育にあたるようにした。
	小学校との連絡会に参加し、小学校教育と円滑な接続ができるように情報交換をしている	2	幼保小連絡会等では、園児の情報伝達はできているが、コロナ禍ということもあり、園児交流及び学校側との接続に関する話し合いや取り組みができなかったため、具体的成果が得られなかった。
健康支援	学校保健計画に沿った保健活動を行う	3	看護師を中心に学校保健計画に沿って活動を進めることができた。コロナ禍で集団での活動が難しい中で園児がさらに健康に関心をもてるような取り組みを工夫していく。
	園児の機嫌や食欲、顔色を観察し、平常とは異なった状態かどうか注意を払っている	5	登園児の健康チェックや家庭との情報交換などで園児の体調を把握し、異常に早く気づくことができた。
	体調不良や怪我が発生した場合、保護者に園児の状況を連絡し、適切な対応をとっている	5	速やかな保護者への連絡と、必要であれば医療機関への受診など、職員間で連携を図り、適切な対応をとることができた。
	園児の成育歴や罹患歴、予防接種状況などの情報を把握している	5	保護者からの情報を取りまとめ、看護師を中心に情報の把握を行った。
	保健だよりにて情報発信をしている	5	毎月看護師がほけんだよりを作成し、情報発信をしている。来年度は感染症の流行状況等を踏まえて必要に応じてその時期に合った物を提供していきたい。
	感染症に対して感染症情報を保護者に伝え、感染症予防に努めている	5	メールや掲示にて速やかに情報を伝えることができた。
	感染症の疑いのある園児に対し、他児と接触しないようにするなど適切な処置、対応をしている	5	疑わしい症状が見られた場合には、素早く別室にて保育をする対応をとった。
	睡眠チェックを年齢に合わせて必ず行い、SIDSの危険因子が無いようにしている	5	3歳未満児クラスはチェック表を用いて睡眠中の様子を観察、記録した。
AEDの使い方も含めた心肺蘇生法について職員全員が理解できるようにしている	4	実物を使用して訓練を行った。緊急時に備え、繰り返し訓練できる機会を設けていく必要がある。	
食育	食育計画に沿って園児が食への興味や関心を高めることができるような活動や関わりをしている	4	栄養士を中心に食育計画に合わせた活動を行い、園児の食への興味や関心を高めることができた。保育教諭と栄養士が連携し、さらに活動を深めることができるとよい。
	安全、安心な給食やおやつを提供している	5	衛生面に従事し、安全、安心な給食・おやつ作りに務めた。
	旬の食材を使用したり、行事食を取り入れたりするなど季節を感じられるような献立作成をしている	5	契約青果店にも旬や食べ頃の野菜や果物について伺うなど、より、季節や素材の美味しさを感じられるよう、工夫できた。絵本に出てくるメニューを取り入れ、食に関心をもって友達と一緒に楽しく食べることができるよう工夫した。
	給食だよりにて情報発信をしている	5	毎月の給食だよりでは、園での子ども達の様子などを盛り込んだものを発行することができた。
	食物アレルギー対応を適切にしている	5	二重の指差し確認等で誤食がないよう務めた。栄養士と保育教諭が連携し、間違いなく提供できた。
	離乳食は家庭と情報交換をし、一人ひとりに合わせた献立を作成し、提供している	4	食材チェック表を通して、保護者との情報交換を基に一人ひとりに合わせた献立作成や形状での提供ができた。
衛生管理・環境	室内の換気を適宜行い、室温、湿度や明るさ、音の大きさなど園児が心地よく過ごせる環境を整えている	5	常に窓を開け、室内の温度、湿度などもこまめに確認し、快適に過ごせるようにした。
	嘔吐物、排泄物の処理に当たっては感染防止のための処理を徹底している	5	研修の内容に従って、正しい処理をすることができた。
	衛生的な空間で園児が生活できるよう、丁寧な清掃を行っている	3	こまめな清掃を心がけたが、整理整頓、清掃が行き届かないこともあったので注意していく。新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、消毒や手洗い、うがいの徹底を図った。
	調乳や園児の食事介助の際には、手洗いや備品の消毒をするなど衛生面の配慮をしている	5	手洗いや消毒など、衛生面の配慮は徹底できている。

災害への備え	学校安全計画・危険等発生時対処要領に基づき、災害等の発生に備えるとともに、防火設備、避難経路等の安全点検を定期的に行っている	5	設備や経路の点検を行い、その都度必要な対策をとるように努めている。棚やピアノ等の転倒防止対策を行ったり、月に一度の避難訓練により、経路や役割等の確認をした。
	危険等発生時対処要領に基づき、緊急時の対応の具体的内容、手順、職員役割分担について確認をしている	3	危険等発生時対処要領は作成してあるが、理解を深めたり、熟知レベルに達していないので訓練等取り入れていく。
	毎月1回、避難訓練及び消火器訓練を行い、反省をして改善点について検討している	4	毎月の避難訓練により、緊急時の対応について確認できている。今後も様々な災害想定の中で行っていききたい。
	災害発生時の保護者への連絡、子どもの引き渡しを円滑に行えるよう体制や手順を決め、引き渡し訓練で確認をしている	5	引き渡し訓練では保護者の方のご協力をいただき、手順や役割分担などを確認できた。より安全でスムーズな引き渡しができるよう工夫していく。
	防災備蓄を用意し、保存期間の確認、必要に応じた入れ替えを行っている	4	賞味期限等を分かりやすくまとめ、定期的に入れ替えや必要物品の追加を行っている。量的に不足気味になることもあるので、その都度整備していく。
	園児の人数確認を定期的に行い、所在把握をしている	5	登園時、主活動前、主活動後、給食、午睡、保育短時間終了時刻など生活の節目の時間には必ず人数確認を行っている。
事故防止	遊具や玩具の安全点検を定期的に行っている	4	室内の玩具は各担当が、園庭遊具は担当者が定期的に安全点検を行った。活動の前にも各保育教諭が目視し、確認をしていく。
	園外での活動に際して、事前に危険箇所を把握し、安全に活動できるようにしている	3	園児が遊ぶ前には確認しているが、木製ベンチの劣化(とげ)や草木の生長により、目線の高さに枝が出ている等、危険箇所の把握が十分でないこともあった。
	日常的な事故予防として、ヒヤリハットを収集、分析し、事故予防対策に活用している	4	事故後の分析、全職員への周知を行い、予防対策に活用した。ヒヤリハットの収集、集計をさらに増やすことで、事故予防という観点から、情報収集ができるようにしていきたい。
	不審者の対応など危機管理について職員で周知している	4	園内研修を行い、マニュアルに基づき、対応等について確認をした。実際にさすまた等を使用してみると、重さと大きさでうまく扱えない様子も見られるので、繰り返し訓練をする必要がある。
	睡眠、プール活動、水遊び、食事等の重大事故が発生しやすい場面について、マニュアルに基づきその場面に応じた適切な対応を行っている	4	今年度はプールは行わなかったが、各対応について再度見直し、マニュアルの周知徹底ができるようにした。
子育ての支援	保護者が積極的に半日保育体験に参加していただけるよう文書や掲示等で促している		今年度、新型コロナウイルス感染症予防策として半日保育体験は中止となった。
	保護者からの相談に対してはプライバシーの保護や守秘義務を守り、親身に耳を傾ける態度で対応する	5	必要に応じて立ち話ではなく、面談の時間を作るなど。話を聞くことのできる体制を作り、親身に耳を傾ける姿勢をとった。
	状況に応じて内部の体制をとったり、外部機関との連携をとり、適切な家庭支援を行う	5	必要に応じて外部機関と連携をとり、適切な関わりができるようにした。
	地域における子育て家庭の保護者等に対する支援を適切に実施している(育児相談・園庭開放・子育て情報誌)	2	コロナ禍ということもあり、年間を通して園庭開放ができず、地域の方々への情報提供等も難しかった。
職員の資質向上	内部研修を計画的に行い、職員が共通認識の下で教育・保育にあたることができるようにする	3	集まった研修等はできなかったが、後半はオンラインでの法人内研修等で共通認識の下、資質向上を図れた。
	キャリアアップを含む様々な内容の外部研修に参加できるよう職員体制を整え、資質向上に努める	4	外部研修もほとんどのものが実施されなかったが、後半はオンラインでのキャリアアップ研修も実施され、職員の資質向上につなげられた。今後、さらに研修が増えていくので、保育体制を整えていくことが課題となる。